

## 実践報告

## 札幌市立新琴似中学校

### (1) 研究内容

研究課題：「学校にアイヌ民族の方を招いて行う体験的学習に関する研究」

- アイヌ民族に対する理解を深めることにより、親しみと敬意を育む。
- アイヌ民族との共生社会を築くために必要なことを考える。
- 人権を、他者理解を通して考える。

### (2) 実践の内容

【実践①】「アイヌの人権①」について

#### ○ ねらい

アイヌ民族の人権に関する実態を知り、人権がなぜ侵されているのかその理由を考える。

#### ○ 学習内容

- ・ 「北海道アイヌ生活実態調査」を利用し、アイヌ民族が現在でも様々な差別を受けている実態について知る。
- ・ アイヌ民族の人権が現在でも侵されていることについて、全体で課題意識をもつ。
- ・ アイヌ民族の人権がなぜ侵されることになるのかその理由を考える。
- ・ 各自が考えた理由をグループ内で交流し、その後学級全体で共有する。
- ・ アイヌ民族への人権侵害が、偏見や間違ったイメージによるところが多いことについて、共通理解を図る。

【実践②】「アイヌの人権②」について

#### ○ ねらい

アイヌ民族の方の講話から、アイヌの人権について現状を理解し、アイヌ民族の人権を守るために何が必要かを考える。

#### ○ 学習内容

- ・ アイヌ民族の方から、アイヌ民族の歴史や現在の実情についての講話。
- ・ アイヌ民族の人権を守るために何ができるかを、「自分たちは…」「学校は…」「行政は…」の三つの立場に立って各自で考える。
- ・ グループで交流し合い、それぞれの立場で最もよいと思われる方法を選び、グループごとに提案する。
- ・ グループの提案を交流し、アイヌ民族の方から意見をいただく。



### (3) 研究のまとめ

#### ① 成果

- ・ アイヌ民族の人権問題について考えるために、まず、1、2年生で、アイヌ民族の文化や伝統的な生活に関する授業を集中的に行った。そのことによりアイヌ民族に対する理解を深めることができた。その成果を3年生において、「アイヌ民族の人権」について考えることにつなげることができた。
- ・ アイヌ民族の方を招いて、体験的な活動に取り組んだり、講話を聴いたりすることにより、アイヌ民族をこれまでより身近に感じ、アイヌ民族に対する人権の侵害や差別の原因は、間違ったイメージや偏見によるものであるということ子どもたちは肌で感じ、実感することができた。
- ・ アイヌ民族の現状を通して人権について子どもたちが考え、平等に生きることの大切さについて、改めて考えることができた。

#### ② 課題

- ・ 限られた授業時数の中で、アイヌ民族についての学習を十分に行うことができていない。また、アイヌ民族の理解を深めるために何をどのように学習すべきかの整理が不十分であった。

#### ③ 提言「人権教育のすすめ」

- ・ 今回はアイヌ民族の人権を考え、共に生きる社会を築くためには何が必要なのかということ、中学校3年間を通して取り組んだ。一定の期間を設定して取り組むことで見通しをもって様々な活動を取り入れることができる。
- ・ 人権教育においては、互いを理解し尊重し合うことが大切である。したがってアイヌ民族に関して人権教育を行うときは、アイヌ民族の理解を深めることが大切である。そのためには、アイヌ民族の歴史の学習も重要だが、北海道の地名からアイヌ語に触れることや、アイヌの生活、文化を学ぶことも有効である。アイヌ民族の生活や文化については、教育委員会から民具等を借用することで、実物に触れさせることもできる。また、札幌市アイヌ文化交流センター「ピリカコタン」からもアイヌ民族に関する道具などの借用が可能である。そして、アイヌ民族の方に直接出会うことが、理解を深める有効な手段と考える。そのためにはアイヌ教育相談員の方と連携を図っていくとよい。また、地域に住んでいるアイヌ民族の方に協力を仰ぐことも可能である（新琴似地区に在住しているアイヌ民族の方がいる）。アイヌ民族について学ぶことができる教材等は比較的豊富にある。それらを上手に活用することでアイヌ民族への理解を深めることが可能である。

